

～【3つの勇氣】～

中間テストがいよいよ明日から始まります。先生方は中体連前の部活練習を終え、テストの準備等に入りますので、帰宅時間がずいぶん遅くなっています。さて明日からのテストに向けて子どもさんの取り組みはいかがでしたでしょうか。職員室での先生方の会話を聞いてみると、子ども達に聞いたら「全く勉強していない。」「30分しかしていない。」と答える生徒もいたそうで、とても心配していました。

テスト勉強なしで本番？本当だとしたら勇氣あるな、と思いました。

対策なしで試験問題に当たっても解けない問題がたくさんあって、その結果、解答用紙にたくさん空欄を残したまま提出することになるでしょう。一つや二つの空欄は普通にある

ことでそう気にすることはないと思います。しかしこれがテストの度に空欄だらけの解答用紙を提出することが当たり前になると、「分かりたい。」「もっと頑張ろう。」という学習意欲が失せ、そのうち「勉強なんてどうでもいい。」という投げやりの気持ちになってきます。

学生時代、本来やるべき学習をやるべき時にせず、何となく高校生になり、社会人になっていったとしても、それで不幸になるとは決して思いませんが、(特に昨今、生徒数の減少で、競争率が1倍を割る高校が増えてきて、以前よりは格段に合格しやすくなっているのは事実です。)世の中の仕組み、世界の動き、時代の変化、そして人の心の変容等、見るべきものがよく見えず、聴くべきものがよく聴けず、知るべきことがよく分からない、そんな、満たされているのか満たされていないのかよく分からない人生を送るような気がしてなりません。もちろん高校入試や大学入試の際に、選択肢の数が極めて限られてくることは言うまでもありません。

そんなことを考えていたら、勉強しないこともある意味、勇氣ある行動なのかなと思うのです。

もちろん勉強していくことが真に勇氣ある行動なのです。サボりたい自分と闘い、スマホしたい自分をやっつけ、遊びに行こうと誘う友人を断るためにたくさんの勇氣が必要だからです。

保護者の皆様。今回のテストに対して子どもさんはどちらの勇氣を発揮しましたか。「しない」勇氣を持ち始めたかな、と思われたら、次のテストから「する」勇氣を持つように導いてあげてください。若いうちは何度でもやり直しがききます。諦める必要は全くありません。



【生徒総会より①】

ぜひ勉強を「させる」勇氣で子どもさんを導いてください。今日と同じ日が永遠に続くということは決してありません。いずれ何らかの形で子ども達は一人で生きていかねばならぬ時が訪れます。その時に子ども達が胸を張って、力強く生きていけるように、保護者の皆様、どうか彼らが鹿南中で学んでいるうちに「する」勇氣を絶対に持たせるのだという「勇氣」を持っていただきたいと思えます。親の一言は教師の千言に勝るのです。

何をどうさせたらよいか全く分からない、と思われたら、ためらわずに学校にご連絡をお願いします。担任、教科担当、学年主任、あるいは管理職、誠心誠意を持って対応していきます。学校と家庭が車の両輪として本当に機能できたら、恐れるものは何もありません。

～【守破離】～

「守破離」という言葉があります。「守(しゅ)」は師匠に言われたこと、師の流儀・基本の型を守ること。「破(は)」は師の流儀を極めた後に、工夫して自分が良いと思った型を作り、既存の型を破ること。「離(り)」は独自の境地の中で一流を目指す。師匠の型・自分自身が作り出した型を踏まえたオリジナルに進化し、型から離れることです。

勉強もスポーツも「守破離」で進化していくと思えます。

スタートは「守」。その基本は「型」。勉強の「型」とは、決まった時間に決まった場所に座り、教科書や参考書、問題集、ノートを開く。この型が無意識にできるまで何度も「やかましく」指導する必要があります。

スポーツの「型」。これはフォームづくりだと思います。野球でもテニスでもバッティングやストロークのフォームが綺麗に、無駄のない動きができるまで、何度も素振りをすると思えます。これなしには上達はあり得ません。



【生徒総会より②】

明日、中間テスト1日目の午後は、中体連担当者が開催されます。そこで組み合わせ抽選が行われ、いよいよ対戦相手が決まります。そして再来週、いよいよ本番を迎えます。

生徒の皆さん、中体連が近づき、不安な気持ちが募り、練習に集中できないような時は、「守」の段階まで一度戻ってみてください。無心に素振りをし、チームメイトと声を掛け合い、励まし合う「型」に立ち戻ることで、きっとやるべきことが見えてくると思えます。

来週から梅雨の予報です。チームメイトと過ごす時間もいよいよ残り少なくなってきました。悔いを残さぬ日々を送ってほしいと思えます。